

言葉で感じる季節

薫風

くんぷう

初夏の若葉や青葉の香りを含んだ
穏やかな風。花の香りを運んでく
る春の風を指すことが多かったの
ですが、今では初夏の爽やかな風
の意味に変化してきた季節の言葉。



昨年の長雨や酷暑の影響により、長らく出荷制限をかけてご迷惑おかけしておりましたが、今月から再開いたしました。ご理解とともに、お待ちいただきありがとうございます。

今月の ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

寒暖差のあと冬を過ぎた春葱たち

京都市内で11月から12月にかけて定植して育った春葱です。例年に比べて寒暖差を大きく感じた、今回の冬。2月に強い寒波がありましたが、3月に入ると一気に暖かくなりました。今回のように寒暖差が大きいと、畑の葱たちも勘違いしたのか、葱坊主が早く上がってしまいます。坊主が上がりきってしまうと根本が固くなってしまい、お届けする商品として収穫・出荷することができなくなってしまうこともあります。そうならないように、追肥などこまめに手をかけて、育てた春の葱です。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

昨年春の経験を経て、パワーアップ

5月は、1年の中でも1番気持ちよく作業ができる季節です。人にとって良いと感じる気候は、ねぎにとっても同じで、スクスクと伸びる時期でもあります。ですが、昨年の5月を思い返すと、べと病・さび病などに苦しめられ、収穫量が減ってしまった苦い思い出があります。その対策として、今年はドローンでの防除も試験的に導入し、予防に力を入れた防除にも努めています。予防防除ができれば、農薬散布の回数も最低限で済ますことができ、より安全・安心なねぎをお届けすることができます。

また、4月から新しい農人も加わり、収穫をメインに体力づくりに励んでいます。お互い切磋琢磨しながら、未来のこと京都を担える農人に育ってくれることを期待しています！



とある日の農人日記。

去年の今頃、市内の畑でべと病が多発して出荷制限をかけた苦い思い出があります。圃場周りにはイネ科の草ヒエの芽が出ており、サビ病を誘発する草でもあるので草刈りもこまめに行い病害対策も行っています。（京都市内・池島）



春の爽やかで淡い青空のもとで、笑顔の農人たち



古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.216

2025年5月号

TEL: 075-601-0668



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。